

FUTURE DESIGN

まずはページをめくってみよう

ためになる読書のすゝめ

VOLUME

65

P.14 - P.15

東芝エレベータグループ
ミッション&ビジョンのご紹介



CONTENTS

03

[特集]

まずはページをめくってみよう

ためになる 読書のすゝめ

12

[連載] 「わっしょいニッポン」

要町あさやけ子ども食堂

14

Our Mission & Vision

東芝エレベータグループの
ミッション&ビジョンを策定しました

16

[プレゼント] Something Special

土直漆器×thermo mug
「URUSHI MOBILE
TUMBLER 蒔地」

COVER PHOTO

日常で楽しむ
自分なりの読書時間

読んでいる本は、読書特集
の中で齋藤教授のお話に出
てきた『新訂 福翁自伝』(岩
波文庫)。皆さんもぜひ自
分なりの読書時間を楽しん
でください。



土直漆器×thermo mug 「URUSHI MOBILE TUMBLER 蒔地」



『FUTURE DESIGN』65号に対する感想
をお寄せください。今回は裏表紙でご紹
介した「URUSHI MOBILE TUMBLER 蒔地」
をご用意しました。アンケートにご回答
いただいた方のなかから、抽選で10名様
にお送りします。(SHU (朱) またはKURO
(黒) の2色から、どちらか1色をお選
びください。)

• 応募締切

2021年12月31日

本体サイズ (約): 直径97mm 高さ138mm
本体重量 (約): 約240g 容量: 300ml
SHU (朱) またはKURO (黒) のいずれか1つ
(ご希望の色をお選びください)

• 応募方法

QRコードまたは下記のURLにアクセスし、
アンケートにご回答ください。

<https://wss3.5star.jp/survey/login/9alesx39>



2021年9月発行

発行: 東芝エレベータ株式会社
広報室

〒212-8585 神奈川県川崎市幸区堀川町72番地34
TEL: (044) 331-7001
<https://www.toshiba-elevator.co.jp>

制作: 有限会社バース
印刷: 株式会社メディア グラフィックス

まずはページをめくってみよう

ためになる 読書のすゝめ



明治大学の
齋藤 孝教授、
読書のメリットを
教えてください!

本を読んだほうが良い気はするけど時間が取れない、
という方はいらっしゃいませんか?

そんな方にこそお伝えしたいのが、読書の効能です。

これからの季節、皆さんも少し浸ってみてはどうでしょう、読書の時間に。



「経験したことがないことを想像する」ことも、大変高度で、人間らしいことだと思います。例えば、ラファディオ・ハーンの『怪談』

自分は物語の映画監督。頭の中でそのシーンを思い描く

効能 2

想像力が発達する

の中にある『耳なし芳一』を大人になってから読むと、「芳一が耳を取られてかわいそう」という見方もある一方、夜な夜な芳一に「平家物語の壇ノ浦のところを語ってほしい」と言ってくる平家の亡霊たちの気持ちが胸に迫ってきたりします。フィクションだと分かっているのに、身に迫ってくるリアリティーがある。これが想像力です。

私はサスペンスが好きでよく読みますが、「本当のことではない」と理解はしているのにドキドキしてしまいます。パトリシア・ハイスミスの『太陽がいつぱい』で、ボートで殺人をするという場面では、そのシーンが映像として頭の中に繰り広げられる。主人公側の目線、やられる

側の目線など各シーンさまざまなアングルを想像し、画にして、いわば自分自身がその物語の映画監督なわけです。そう考えると小説を読みきくということは、映画を一本撮り終えたような充実感があるはずなんです。読んだ本が実際に映像化された際、主人公や登場人物が自分のイメージと違うと感じることがあるのは、自分の中でその物語が既にイメージ化されていたことの表れです。現実ではないことを自分自身の感じ方で想像する。このような読み方は、「想像力」を飛躍的に伸ばしてくれるんです。

私たちはこのように先を想像し、それまでにあった文脈と絡み合わせて予測ができるわけです。これは意味と意味のつながりが分かります。物事を理解するという「文脈力」と言えます。本の特徴は、文と文がつながっているということです。そこには文脈があり、それを読み取らないと「あそこに伏

線あったでしょ？」と言われたときに、「そんなのあったっけ？」となる。そうすると読書は面白くないんですね。映画でも急に場面が飛んで「この人誰だっけ？」と悩んだ経験はありませんか？でも、「30年後の主人公だ」と、いちいち説明は入りませんよね。文脈から読み取ってほしいということですね。本を読んでいると一文一文がどんどんつながってきて、予測をしながら読むことになるので、非常に文脈力が鍛えられます。これが読書をする上でとても良いポイントです。そうすると、現実の世界で物事に対処するときも文脈が掴めるようになるんです。「この人は何でこんな話をしているんだっけ？」というような場面でも、相手の心の動きをしっかりと読解できるようになります。小説などの心の動きを描写した作品を読むことは、人の心の動きを的確に把握する練習になっているのです。

齋藤教授に伺った

頭にも心にも効く「読書の効能」

思考が柔軟かつ多様になる。物事に的確に対処する練習になる。心の味方になり支えてくれる。やっぱり読書ってすごいんです！

効能 1

頭の訓練になる

多くの語彙を仕入れることで考え方が緻密になっていく

「文字を読んで内容を理解する」ということは実は高度な作業です。それは自然に与えられたものではなく、小さい頃から言葉や文字を覚え、順々に積み上げてきた技なんです。この高度な作業が頭の訓練になっていることを、皆さん意外と気付いていないのではないのでしょうか。

文章で書いてあることを理解し、自分の経験と照らし合わせ、人に話すなどのアウトプットをする、著者と自分の頭の中身がつながったことになりました。これはとてもおめでたいことなんです(笑)。それぞれの違う脳が、何を考え、感じているかは本来分からないはずですが、それを精妙に伝えられるのが「文字」なんです。私たちは言葉を通して思考をしています。だから言葉の数を増やしていくことが大事なんです。20個

ほどの少ない言葉しか操れないとすれば、思考に限りがありますよね。本の中で使われている言葉は、普段使う言葉と比べて非常に語彙数が多くて、例えば「不可逆的」とか「恣意的」など、日常会話ではそれほど使わない言葉も登場します。そういう言葉を頻繁に使う方は読書をしてきている方です。読書をする事で多くの語彙を自分の中に仕入れることができ、考え方が精密になっていくのです。ちなみに、読書量が多いと、会話などで相手の方が読書をしている方かどうかすぐに分かります。

「我思う、故に我在り」と唱えたフランスの哲学者デカルトの『方法序説』では、物事の考え方の基本が書かれているわけですが、彼の頭がとても整理されているため、その著書を読むことで、読んだこちらまで頭がスッキリと

してくる。そんな不思議な効用も読書にはあります。

近年、「インプット」や「アウトプット」など、インターネット関連では新たな用語が次々と生まれ、言葉の概念も増え続けています。概念が増えるということは考え方も増えるということです。例えば「自由」や「理性」といった概念がまだ手に入っていない時代もあったわけで、読書を通してそういうものを一つずつ獲得していくことで、思考が柔軟になり、多様になっていく。これが「読書が頭に良い」と言われる理由でもあります。



心の支えになる

読書は偉大な人が直接対話をしてくれる貴重な時間

「なぜ、世の中の人間のことがそんなに分かっているんですか？」と聞かれたココ・シャネル



「なぜ、世の中の人間のことがそんなに分かっているんですか？」と聞かれたココ・シャネルは、「本を読んでいるから」と答えたそうです。シャネルは子どもの頃から読書に親しみ、仕事忙しいときも一人の時間を作って本を読む読書家で、「本からはいろいろなことを学ぶことができる」と考えていました。読書から学んだことが自分を支えることもあり、また、偉大な著者の本を読むことで、その著者と対話する時間を日常の中に持つこともできるわけです。例えば、『福翁自伝』には福沢諭吉の一生が凝縮されていますから、それはあたかも「私の一生を語るから聞いてくれ」と言われているようなことでもあります。そう思えば、聞きたくなりますよね。『論語』も然りで、もし目の前で孔子が話してくれているとすればどうでしょう。2500年前の方から話を聞くことを想像すると、本当にすごい

ことだと思えます。このように読書では、時代を超えて偉人の言葉を今聞くことができる。彼らと一対一で過ごす時間は人生にとって貴重なものですし、その考えや生き方から学ぶことで、視野が広がり、向上心が刺激されるのも、言葉がそのまま残っている本のおかげなんです。

なかなか目の前で偉人が話しているとは想像できない方は、音読をしてみると良いと思います。例えば『論語』の「吾十有五にして学に志す。三十にして立つ。四十にして惑はず。五十にして天命を知る。」を声に出して読むと、孔子の考えが何となく自分の体の内側から感じられるようになるんです。孔子の言葉だけど、覚えてしまおうと自分の言葉の一部になり、自分の精神になっていく。私はこの精神の伝統文化の継承がすごく大事だと思っています。論語や儒教の精神的な文化は、2500年の伝統があり、そう

いう文化があると知ることによって自分に関りかかるとさまざまな出来事も客観的に考えられるようになるんです。

私たちは自分の心だけで生きようとする苦しくなることもあります。そんなとき、特に自分が尊敬する方の本を読むことで、その方が自分の心に住み込んで、自分を応援してくれる存在になってくれる感じがします。私は小学生の頃からそんな印象をずっと持っていました。シェイクスピアやトルストイの世界観や考え方が小学生なりに自分の中に入ってきて、何かにつけ自分の心を形成し応援してくれるんですね。読書することで自分の心の味方が増えていくんです。今の時代は「心が不安定な方が多い」とも言われています。そんな今だからこそ、苦しいときに心の支えになる読書の力が必要ではないでしょうか。「一人で戦わない」というのがとても大事だと思います。

おすすめの読み方を伺いました

齋藤教授直伝、年代別の読書法

小・中学生は伝記や自伝を
高校生は日本の近代文学を

まず小学生、中学生は、伝記や自伝を読むのが良いですね。「こんな人物になってみたい」と夢が膨らみます。生き方に関する深い認識や、志を持つことで、その後の人生に方向性が見えて、勢いが出たりするんですね。さらに勉強をする気になったりもします。「生き方のモデルを持つ」ということは、その後の人生にとって大変有益だと思っています。

日本の近代文学はすごく優れていますので、高校生はそういう本を読むのが良いと思います。私の高校時代には、先生が読書の時間を作ってくれて、その時間に大抵の日本の近代文学を読むことができました。そのおかげで、森鴎外、夏目漱石、谷崎潤一郎、太宰治、

川端康成といった方々が、自分の中に文化的に形成されています。新書を読む習慣を付けければ人生がもっと豊かになる

大学生や社会人には、新書を読むことをおすすめしています。著者の伝えたいことが詰まっています。エッセンスが掴みやすく、しかも読みやすいんです。新書が読めるようになると、この世のほとんどの分野に関する知識がコンパクトに手に入るようになります。専門家がそのテーマについてきちりと書いたものを、短い時間で読むことができるのでコストパフォーマンスは大変良いものだと思います。

新書を読破するのがつらければ、書店で本を買ったらそのままカフェに入り、1時間ほどで1冊を読んでしまおうのがおすすめです

す。一字一句全部読むというよりは、前書きや後書き、目次で「ここが大事」というところをしっかりとまず読む。そして順序関係なく大事な主張部分へ飛んでいき、そこに3色ボールペンで線を引っ張ってみます。「ここがすごく大事」を赤、「まあ大事」は青、「個人的にここは面白いな」は緑、というやり方を私は実践しています。そしてそれを人に話せるようにしておく。人に話すと読んだ内容を忘れないという良さがありませんので、アウトプットを前提として読むというのは効果的だと思います。

新書は30代、40代、50代と歳を重ねていっても読めますので、こうしたやり方も工夫しながら自分の読書習慣を付けていくと、生きていく上での強みにもなると思います。

電子書籍と紙の本の違いって？

読書体験の感覚が違う感じがしますね。私にとっては紙の本の方が印象に残りやすいです。感覚や思考を深くしたい読み物などの場合は、基本的には紙の方がいいかと思います。一方、電子書籍は目を流すように読めるので、早い速度で“情報摂取”をするという点では向いていると思います。

今では電子書籍もさまざまな本が揃っていますし、移動中に次から次へと読めるのはとても便利ですね。ただ、やっぱり私は紙の本が落ち着いて読める。脳の働きとしても紙の本の方が効果的と言われて

「スマホは封印」！読書タイムを確保しよう

移動の時間を読書に充てるという方法もおすすめしています。例えば、電車で30分間乗る場合など、スマートフォン（以下、スマホ）を操作しているとあっという間に時間は過ぎてしまいます。そこで、あえてスマホは封印することにします。カフェで読書をする際も同じで、スマホを

見るのを我慢して、バッグに仕舞い、文庫本や新書などを手にする習慣を付けるようにしてはどうでしょう。今の時代はスマホ時間がどうしても増えがちですので、生活の中で少しでも読書時間を確保し、さらに読書のタイミングを増やしていくというのではないかと思います。

検索→カート保存→図書館で試し読み→購入＝読書

マーケティングの仕事をしていて、社会人時代、アイデアの引き出しを増やすためにあらゆるジャンルを暇さえあれば読んでいました。ビジネス書に流行り廃りがあるのは当然ですが、そのうち中・高等学校で習った理科や社会科の知識がもはや過去のものと感じることが多くなりました。特に21世紀に入ると、脳科学やネットワーク科学、行動経済学などの新しい体系に、職業上の経験則がどんどん組み込まれてゆくのはびっくりでした。最前線を知るためにもノンフィクションを読み漁るようになりましたね。インターネットが身近になったおかげで、読書から得た知識がホンモノかどうか、さらに新しい領域が広がっていないか、などを確かめる癖がついたのもこの頃です。

今でも気になったことはすぐにGoogleやツイッターなどで検索

し、気になる本があればAmazonのカートに入れるのが日課です。Amazonの書評、読書サイトの「読書メーター」や「HONZ」などの評価、YouTubeの「本要約チャンネル」なども参考にします。週一回は、そのカートの中身をまずは図書館で試し読み、気に入ればネットや書店で購入し熟読。紙の本が溜まると裁断してデータ化してくれるサービスを利用します。数年前には蔵書2千冊分をPDF化したところ、SDカード1枚になり、今では本棚すらありません。

よく、Z世代や孫世代の活字離れを心配する声を聞きますね。でもゲームで『三国志』を知り、漫画『キングダム』で始皇帝と出会うかもしれませんし、映画やアニメ好きなら原作が気になるかもしれません。好きなメディアを通して好奇心が湧けば、自ずと活字に出会うときが来るのではないで



萩野冬彦さん
Fuyuhiko Hagino

国会図書館のベンチで、カート保存した本を確認。ヨコの銅像も、「へえ、その本、面白そうじゃん!」と言ってそう。

しょうか。いつでも、どこでも、一人でも、競わず、安価にできるのが読書のいいところです。興味を持ったことをまずは検索してみるとところから始めてみるといいかもしれませんね。

「想像の世界」が私を強くしてくれます

母の影響で、幼少時から絵本や児童文学をたくさん読んでいました。文章と少しの挿絵だけで膨らむ想像の世界が好きで、『エルマーのぼうけん』や『長くつ下のピッピ』は親に呆れられるほど読んでいました。最近は小説、エッセイ、雑誌などをよく読んでいます。ハマっているのは「食」に関する本。食べ物や味の表現を文字で感じ、「食の妄想」に浸っています。

読書のおかげで、想像力が広が

り意外な発想が生まれたり、他人の気持ちを考えられたり、明るい未来を思い浮かべたり、ワクワクすることが増えました。また、自分の考えが言語化でき、多様な表現や例えを交えて人に伝えるときに、本から学んだ経験が生きていると実感します。

私は電車通勤中の読書が好きで、ドアが開く瞬間の、別世界から現実に戻ってきたような感覚をこっそり楽しんでいます。



塩ノ谷佳奈さん
Kana Shionoya

皆さんの楽しみ方を聞きました

読書好き、集まれ～!

読書好きの皆さんはどのように読書を楽しんでいるのか?

本を好きになったきっかけや、お気に入りの作品なども聞いてみました。

日常生活を忘れてリラックスできる本の世界

読書をするようになったきっかけは、中学生の頃に読んだ星新一の『ポッコちゃん』でした。分厚い本を読むのに抵抗があった私には、ショートショートというジャンルは取っ付きやすく、新鮮に感じました。

最近ではミステリーにハマっていて、森見登美彦先生の作品が好きで、数々の傑作の舞台になっている京都にも行ったりしました。ほかにもファンタジーやSFもよく読みます。

普段の日常生活を忘れ、リラックスできるのが読書の醍醐味です。また、本から新しいアイデアや視点を得ることができ、難しい漢字などを学習する機会にもなっているので仕事にもとても役立っています。

おすすめの読書法は、図書館に通うことです。静かで、冷暖房完備で、しかも無料! 読書をするうえで最高の環境が整っていることに、大人になって気付きました(笑)



シュウヘイさん
Shuhei

感情を揺さぶられ、勇気もらえます

高校時代は一人であるのが好きで、常に文庫本か漫画を持ち歩いていました。最初にハマったのは江戸川乱歩で、気付いたときには独特の世界観に入り込んでいました。

今はフィクション小説と漫画が好きで、文庫だと週に1冊程度、漫画なら1日で20冊ほど読むこともあります。好きな作品をいくつかあげるなら、J・D・サリンジャーの『ライ麦畑でつかまえて』、村上春樹の『ダンス・ダンス・ダンス』

などです。

私にとって本は、感情を揺さぶってくれたり、心を救ってくれたり、自分のアイデンティティを確認させてくれる存在です。また、物事がうまくいかなかったときなど、気付きや勇気ももらうこともありますね。

好きな音楽を聴き、ハーブティーやお酒を飲みながら本の世界に心酔していく時間が、私にとっては至福の時です。



市原江理香さん
Erika Ichihara

文章を読むのが苦手、目が疲れる

本を耳で聴く「オーディオブック」を活用

文章を読むのが苦手で億劫に感じるなど読書に抵抗がある方には、「オーディオブック」もおおすすめです。プロのナレーターや声優が本の内容を読み上げてくれるサービスで、無料のものから定額制までさまざまなアプリがあります。登場人物別に声優が変わるものもあり、音響入りとまではいかないまでも、まるでラジオドラマを聴いているかのような臨場感もあり、続きを聴くのが楽しみになります。スマホやタブレットでページをめくる必要もなく、通勤・通学、ランニングや家事をしながら聴けますし、ダウンロードすればネット環境がなくても再生できます。ジャンルやページ数にもよりますが、1冊が大体7～10時間で聴け、倍速再生などご自身に合った速度でも楽しめます。

さらに、本を読むと目が疲れる、文字が小さくて読むのが大変といった悩みを持つ方にもピッタリです。まずは、試聴してみたいかがでしょうか。



読みたい気持ちはあっても時間がない

ちょっとした隙間時間で読書習慣をつくる

読書はしたいけど、なかなか時間が取れなくて…という方も多いと思います。そんな方は、読書を日々のToDoリストに入れてみるといいかもしれません。ToDoリストに「読書」を加えたら、まずは本を選びましょう。移動時間中やお昼休み、就寝前の10分間、など意外にもちょっとした隙間時間も有意義に使えたりするものです。「電車やバスに乗ると、すぐスマホ」という方や「隙間時間には何

となくスマホ」という方などは、その時間を意識的に読書タイムに替えてみるだけで、月に数冊の本を読めるかもしれません。

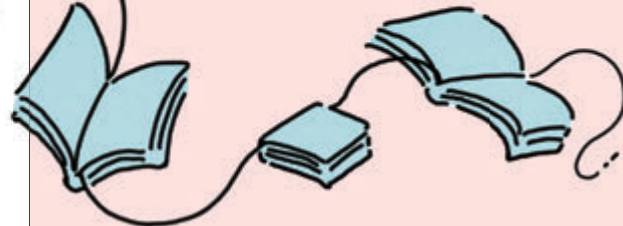


どんな本を読めばいいかわからない

読み終えた本から芋づる式に次の本を探す

数ある本の中で、読むべき本はどれなのか、何を読めばいいかわからないということ、あると思います。ゆっくりと選ぶ時間もなく、調べるのも面倒…、そんな方は「芋づる式」という方法を取り入れてみてはいかがでしょうか。同じ著者が書いた本やタイトルに同じキーワードが入っている本、文中で紹介されていた本など、ご自身が読み終えた本との関連性から次

の本を選んでいきます。「その人のことや情報をもっと知りたい」という好奇心が興味の幅を広げて、次に読みたい1冊へと導いていくはずです。ご自身で本を選ぶのが難しい方は、プロの書店員による選書サービスの利用や、YouTubeなどの動画サイトで本好きさんのイチオシをチェックするのも便利です。インターネットを駆使してレビューや要約サイトを参考にすることで、ご自身が興味を持ってそうな本を探してみましょう。



途中で読むのをやめてしまう

ルールに縛られず、自分なりに楽しむのが大事

本の内容に興味を持てなかったり理解できなくなり、途中で読むのをやめてしまった。そんな経験がある方もいるのでは？ そんな方は短編小説や、挿絵などの多い本などから始めてみてはいかがでしょうか。語彙力が高まり、文章のリズムがつかめれば、読み進める速度も上がっていきますし、もっと読みたいという知的好奇心がくすぐられるかも。

「読み始めたからには読み終えなければいけない」と義務感を抱いてしまうと、窮屈になってしまいます。読書を楽しいものと捉えられるよう、好きな本や読みたい本を何冊か手元に置いて、数冊同時に読み進める「並列読書」で気楽に本を手にとってみるのもおすすめです。読書量が増えて自発的な読書の習慣化につながるといわれています。手を付けられていない本が「積読状態」の方はぜひ試してみてください。



モチベーションが上がらない・保てない

書店に足を運ぶだけで読書欲が湧いてくる

本を読むモチベーションが上がらないときは、書店に足を運ぶこともおすすめです。特に、入るだけでワクワクしてしまうエンターテインメント性が高い書店では、刺激も多く読書欲も湧くはず。ジャンルに特化したコンセプトを設けていたり、カフェが

併設されていたりと特徴ある書店も増えてきました。こうした読書を楽しめるような「居心地の良い本屋さん」が人気を集めています。

また、ご自身の読書空間を快適にするのも効果的です。好きな音楽をかける、照明にこだわる、おいしいコーヒーを淹れるなど、ご自身の楽しみやリフレッシュ術をプラスすることがモチベーションアップにつながります。さらに読書アイテムとしてお風呂でも本を読めるビニール製のブックカバーや、好きなデザインのしおりなどを揃えても楽しい気分になれます。



タイプ別

より楽しめる読書法

読書をする中で、それぞれ悩みが出てくることもあるはず。そんなときはぜひこれらを参考にしてみてください！

最後まで読んだが内容が頭に残らない

アウトプットをすることで深く理解できるように

本を読み終えても「どんな内容だったっけ？」と頭に残っていない、忘れてしまったということはありませんか？ そんなときは齋藤教授のインタビューにもあったように読後に誰かに話してみる、感想文を書くなどアウトプットをしてみると、本の内容が深く理解できるようになっていきます。話す相手がない場合は、読書好きが集まる読書会に参加してみるのもおすすめです。みんなで読書をしたり、それぞれの読書体験を話したりすることで、より理解が深まります。オンラインで開催しているところもあるので、コロナ禍でも安心して楽しむことができます。

また、オンライン書店で本を購入した場合は、そのサイトでレビューを書くのもおすすめです。本の感想を書くことで考えが整理できますし、他の方のレビューを見て、自分とは違う捉え方を発見することで、読書の質もより高まるはずです。



要町あさやけ子ども食堂

温かな団らんが笑顔を作る。 みんなの居場所が、ここにある

大きなモクレンの木がある山田和夫さんの自宅では、毎月2回、夕方から「あさやけ子ども食堂」がオープン。利用者が100人を超える日もある食堂だ。コロナ禍の今は、食堂はお休みし、企業や個人から寄せられた食材を配布している。山田さんとボランティアの仲間たちに会いに行った。

●写真 阿部 了 ●文 阿部直美

作る人、食べる人、遊ぶ人。誰が来てもいい

「アベさん、エプロン持ってきた？」山田和夫さんの開口一番がこれだった。「寒天づくり手伝ってよ」。赤いエプロンを借りて厨房に入ると、紫色のジュースが目に残る。「これは、山田さんちの庭で採れた桑の実のジュースよ」。鍋を火にかけて寒天の粉末を溶かしていた貝谷さんが教えてくれた。他に、オレンジジュースやカルピスなども使って何種類かの寒天ゼリーを作るといふ。厨房にはもう一人、卵を割る男性の姿も。「スタッフの賄いですよ。冷やし中華にするからね」。津久井さんは、卵焼きを作り始めた。本日は「子ども食堂」の日。しかしコロナ禍で、昨年3月から食堂はお休み中で、今は個人や企業が寄付してくれた食品を配布している。「でもただ配るだけじゃつまらないから、皆で何か1品作ろうってことになってね」と山田さん。「暑いからゼリーがいいんじゃないかって決まったんだ。皆でたい焼きを焼いた日もあったよ」。別の部屋では、農家や地元商店などが寄付してくれた米やバナナ、缶詰類を袋詰めする人たちの姿もあった。

山田さんの自宅でも月に2回、第1・第3水曜日に開かれる。貧困は見た目にはわからない。生きづらさや、問題を抱える親子もいる。彼らの居場所となるよう、予約なしで誰でもご飯が食べられる。大人は300円、子どもは100円支払う決まりだが、状況によってはお金を貰わない。山田さんの寝室以外は出入り自由。食事が済んだ子どもたちは2階に上がり、本や紙芝居を読みでもったり、思う存分遊べるのも他の子ども食堂ではない光景だ。料理を作り子どもたちと遊ぶのは、近所に住むボランティア。コロナ禍になる前は、食堂の利用者が100人を超えた日もあったという。通常は60人〜70人で推移していたというが、何食分用意するかは出たとこ勝負だ。「そこは主婦力だね。あら、足りない



15時からの配布を前に、寄付で届いた野菜を袋詰め。

わって、自分ちの冷蔵庫に走る人もいて、何かしら1、2品作って間に合わせちゃうから」と、山田さん。「まだ包丁使いがおぼつかない学生がボランティアで来てもね、年配の女性達は自分はずっと身を引いて新人に任せるの。見事だよ」。その日、取材者の私が厨房に入れたのも山田さんの気遣いだ。鍋を洗いながら居場所を得た私は、皆との会話がとてもスムーズに進んだからだ。実は山田さんの自宅は、毎週1日「あさやけベーカリー」というパン工房にもなる。妻の和子さんが生前「こんがりパンや」を営んでいた。小さい臓がんを患った和子さんは亡くなる直前、「これならあなたでも焼けるわよ」と1枚の手書きレシピを夫に託した。パンを路上生活者に配る活動をしていた妻。しかし、山田さんにはうまく焼けない。妻の意志でもあるからと焼き続けるうちに「手伝いたい」という申し出があった。元ホームレスの

人たちが。「TENOHASHI」や「世界の医療団」との出会いもあり、売らないパン屋のあさやけベーカリーが2011年スタートした。毎週水曜日に元ホームレスのメンバーが集まり山田さんとパンを焼き、路上生活者に配られる。材料や賄い飯を作る活動費が必要だからと、山田さんは魚屋でパートも始めた。「パンを焼く皆は、子ども食堂と同じく無償です。私は外で得たお金をここに提供してる。同じことだと思ってる。パンを焼く彼らにとっては、ここが居場所じゃないかな。私もね、魚屋へ行くと山田って名前が書いてある長靴と合羽が置いてあって、私の居場所が他にあるのは嬉しいのよ」あさやけベーカリーの活動を、妻のパン仲間らも支えてくれた。ある日、その1人から大田区の「きまぐれ八百屋だんだん」を教えてもらう。子ども食堂の1号店である。見学に行き、自分もやろうと決めた。2013年、妻が好きだった庭のモクレンが咲く3月、山田さんの「子ども食堂」がスタートした。妻和子さんの1枚のレシピから始まった、人と人との繋がり。いつしかこの家は、みんなの居場所になった。作る人、食べる人、遊ぶ人。誰が来てもいい。コロナ禍の試練の後、また賑やかな日が戻るはずだ。

山田和夫さん（前列左端）とボランティアの皆さん。この日は、「PIZZA-LA」からピザの提供やイスラムモスクを通して食料品の提供も。

東京都
豊島区要町



Our Mission & Vision

東芝エレベータグループの ミッション&ビジョンを策定しました

2021年4月、私たち東芝エレベータグループは、自らの「ありたい姿」を定義した「ミッション&ビジョン」を策定しました。「安全・安心」を最重要かつ普遍的な基盤として、今後も誠意と情熱を持って、豊かな社会の実現と地球環境に貢献していきます。

Mission

安全・安心の、その先にある笑顔の実現へ。

これからもお客様と一緒に わたしたちの街から世界の街へ
笑顔と喜びの輪を広げていく。

Vision

わたしたち東芝エレベータは、
一人ひとりに寄り添い、つなぎ、
新たな価値を創造し、心躍る体験を共有します。

誠意と、情熱を持って、
豊かな社会の実現と地球環境に貢献します。

「安全・安心の、その先にある笑顔の実現へ。」を
私たちのミッションとして宣言します

2020年6月から弊社では、
個人・部門・企業としての「ある
べき姿」ではなく「ありたい姿」
を思い描き、追求しています。

2021年4月には、弊社グ
ループ全体での「ありたい姿」を
明確に定義し、全従業員の日々の
活動の拠り所となるよう、ミッ
ション&ビジョンを新たに策定し
ましたので、このたび弊社広報誌
を「愛読いただいている皆様にご
紹介させていただきます。

「安全・安心の、その先にある
笑顔の実現へ。」というミッシ
ョンの実現には、感謝の気持ちを表
すことが重要であると認識し、笑
顔が自然と広がっていくよう、ま
ずは全従業員が意識し
て、感謝の気持ちをしっ
かりと言語化すること
から始めるよう注力し
ています。

私たち東芝エレベ
ータグループは、「安全・
安心」を最重要かつ普
遍的な基盤とし、コン



東芝エレベータ株式会社
代表取締役社長
柳瀬悟郎

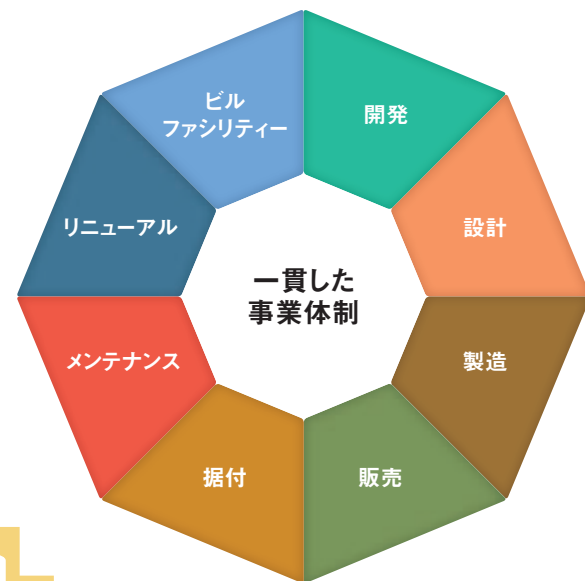
ブライアンスを遵守し、ミッシ
ョン&ビジョンを胸に、誠意と情熱
を持って豊かな社会の実現と地球
環境に貢献していく所存です。従
業員一人ひとりがあらゆる意思決
定の場面でこのミッション&ビ
ジョンを意識することで、「あり
たい姿」の実現に向けて取り組ん
でまいりますので、今後とも忌憚
のないお声をお聞かせいただく
とともに、今までも増して「愛顧
賜りたく、心よりお願い申し上げ
ます。

「造る力」と「守る力」で 安全・安心を追求し続けます

弊社は昇降機に関わる製品やシステム、サービスの開発から設計、製造、販売、据付、メンテナンス、リニューアル、そしてビルファシリティ事業まで、一貫した事業体制を構築しています。

開発から据付までの「造る力」と、製品稼働後の「守る力」が協調することで生まれる総合力。それは、現場の声を反映した製品開発や、造ったからこそできる綿密なメンテナンスサービス、そして長年機器の状態を拝見しているからこそその最適ナリニューアル提案へとつながります。

弊社はこれからも「造る力」と「守る力」のそれぞれにこだわりを持ち、建物のライフサイクル全体でお客様に寄り添って、安全・安心、そして快適を追求し続けます。



気になるモノ見つけました

Something Special

13



SHU(朱)か
KURO(黒)の
どちらか1つを
プレゼント

読書時間にいかがでしょうか

土直漆器 × thermo mug 「URUSHI MOBILE TUMBLER 蔦地」

好きな飲み物があれば、読書時間はなお楽しくなる。今回おすすめしたいのが、優れた保温・保冷機能を備える真空二重構造のステンレストンブラー。前述の機能とシンプルなデザインが人気の「thermo mug」と、約1500年の伝統を誇る越前漆器の産地で新しいデザインに挑戦し続ける「土直漆器」がコラボレーションした逸品だ。

飲みごろを長時間キープする機能性に、

土直漆器の職人が1つずつ丁寧に塗り重ねて仕上げた漆の上質さが融合。蓋はスクリュウタイプで密閉性が高く、300ml容量で、外側に結露しにくいいため、持ち歩きにも便利だ。表面は、漆を塗った後に地の粉を蒔く「蒔地」という手法を使うことで、丈夫で傷が付きにくく、独特の質感が楽しめる。読書の合間の一服にも、深い味わいが感じられるのではないだろうか。

 合計10名様にプレゼントします。詳しくはP2へ